

## 2023 年度秋季大会 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2023 年 11 月 25 日（土）・26 日（日）

会 場：山形テルサ（山形県山形市）

公益社団法人「日本語教育学会」では、最新の研究と実践の成果を発信・共有し、参加者間の交流およびネットワーキングの促進を目的とした大会を年 2 回（春・秋）開催しています。コロナ禍を経て、今年度より春季大会をオンラインで、秋季大会は対面で開催することになりました。そのため本大会は 4 年ぶりの対面開催となりました。

本大会は、有料イベントへの事前参加登録者は 576 名（招待・関係者含む）で、42 都道府県および世界の 3 つの国・地域からの参加がありました。大会期間中は、パネルセッション 3 件、口頭発表 24 件、ポスター発表 32 件が、審査・運営協力員の協力を得て行われました。詳細は大会プログラムおよび発表要旨をご参照ください。なお、大会予稿集は今大会より大会終了 2 週間後から、学会ホームページで無料公開をすることとなりました。

パネルセッション・口頭発表・ポスター発表のほか、大会の 1 日目には、社会啓発委員会の企画による一般公開プログラム「外国人技能実習制度に求められる日本語教育～誰のため？何のため？～」が開催され、来日後教育、地域日本語教育、海外での日本語教育支援の立



場から議論が行われました。また、日本語教育を学ぶ学生や研究活動を始めたばかりの方々の大会参加をサポートする「わかばさんいらっしやい」（チャレンジ支援委員会）ほか、「交流ひろば」が開催されました。さらに、対面開催の機会を活かし、学会員同士や新たに日本語教育に取り組み始めた方々との交流を目的に大会委員会主催の「交流会」を実施しました。懇親会が果たす役割を受け継ぎながらも、交流を中心により気楽に参加で



きる会になるよう努めました。

続く 2 日目には、学会参加に関する疑問に答える「わかば・コンシェルジュ」（チャレンジ支援委員会）が設置されるとともに、東北で実践されているさまざまな取り組みを紹介する「地域発信企画」も実施されました。

午前と午後の口頭発表の間には説明会が実施されました。そのほか賛助団体会員出展ブースも賑わいを見せていました。

4 年ぶりの対面開催となった今大会でしたが、遠方からも多くの参加者が集まり活発な議論が繰り広げられるとともに、会場の随所で久しぶりの再会を喜び合う声が響きました。

次回春季大会は、2024 年 5 月 25 日（土）・26 日（日）に、オンラインで開催の予定です。  
(文責：大会委員会)